

在外教育施設での教育実践

上海日本人学校における実践
諫早市立小栗小学校 北島 知津 先生



上海日本人学校へ赴任された北島先生の実践報告がありました。大規模校の特色を生かした運動会や学習発表会、現地校との交流など興味深い実践でした。近くて遠い国、中国。マイナス報道が多い中、中国人との絆を感じる出来事、日本と中国との歴史・文化のつながりを紹介していただく中で、日中友好を感じることができました。

イスタンブル日本人学校に赴任して
波佐見町立南小学校 宮崎 裕一郎 先生



マフィアの抗争に巻き込まれるという衝撃の話からスタートした報告でした。派遣先での教育実践の中で、それまでの自分の経験を現地ですながらの取り組まれたとのことでした。困難なこともあったが、たくさんの人に出会ったことや日本を見つめ直す機会になったことが大きな収穫であったとまとめられていました。

国際理解教育講演会

「ちがいととも生きる」

長崎大学地域教育連携・支援センター
副センター長・教授 江頭 明文 先生



「ちがいととも生きる」という演題でご講演をしていただきました。グローバル化の中での基盤は、自分のふるさとであり、ふるすとは自分らしさの基盤である。自分たちの足元を見つめ、ここにいたい、ここに帰ってきたいという願う子どもたちを、社会総がかりで育てていくことが重要。教師の力量は、世の中の課題と地域とを結びつけること...など、示唆に富む話をたくさん拝聴することができました。